

チームパナプラスで
協力して上を目指す

前号で紹介した野菜畠生産ミニトマトの販売を行っているパナプラス株（小竹花絵社長・栃木県大久保町）の後編をお届けする。オリジナルミニトマト「ハーパリツ」、ペ

トト
トト

小竹花絵社長が忘れられない味のトマト作りを目指して2019年から販売を開始したが、2020年野菜ソムリエサミット金賞受賞のほか、ミュシユラングガイド掲載レストランで利用されるなどすでに大きな評判を呼んでおり、食した人から絶賛されているトマトだ。

栽培のポイントについて仲田雅洋事務に尋ねると、「養液土耕によるポット隔離栽培を

は培地の量が2リッタであり未満なのですぐく管理が難しく、ずっと張りついていなければなりませんから大変なんですが、植物生理的には夜間に水を吸うというのをどうやって抑えて凝縮させていくかということです。あとは根の張り方が重要なので培地が重要になってきます。毛細根が出ていることを実感する有機JAS認定資材をどのよ

パナプラス 小竹花絵社長

やかになつてシャキツとしていると言つています」根に微細なミネラルをしつかり吸収して実際に添加するようなかたちにもつていくそうちで、肥料も慣行栽培に比べたら窒素肥料換算で10分の1くらいしか使っていないし、殺菌

商品名をつけて、苗を販売すること、を提案したのです」



「こくパリッ」は栃木や茨城など、一部の道の駅でも販売している（筑西市・道の駅グランテラス）

小竹花絵社長が忘れない味のトマト作りを目指して2019年から販売を開始したが、2020年野菜ソムリエサミット金賞受賞のほか、ミュシユラガイド掲載レストランで利用されるなどすでに大きな評判を呼んでおり、食した人から絶賛されているトマトだ。

栽培のポイントについて仲田雅洋専務に尋ねると、「養液土耕によるポット隔離栽培を

おり、緩衝能的では培地の量が2リットル未満なのですごく管理が難しく、ずっと張りついていなければならぬから大変なんですが、植物生理的には夜間に水を吸うというのをどうやって抑えて凝縮させていくかということがです。あとほ根の張り方が重要なので培地が重要になつてきま

す。毛細根が出ていることを実感する有機Jのことです。あとほ根の張り方と抗酸化力、いわゆる硝酸態窒素がうちのトマトからはほぼ検出されないとということでした。レストランのシエフからもパナプラ

る。そして微生物資材をかなりの頻度で使つており、植物にどつてマイナスになるようなものを使わないことが良い結果に結びついていると仲田専務は分析している。

6年の試験を経て誕生したトマトは地元の人たちから絶賛され、本格的に販売をはじめたところ好調な滑り出しだある。小竹社長は、「トマトを一粒食べてもらうだけでどう

入れてきて、子頃はそれがとても味が忘れられなく京農業大学農学部業して家に入り、に思いついたのが一ノです。ちょうどの頃ロッテがペピガムを発売していくにヒントを得格的にやつてみた格いました。ホーランターナなどと取引つたから、企画商としてゴールドNo.1う商品名をつけて

併の
美味
普及に私たちも参加し
たいと提案したら、高
くて東
畑先生がいま蓄積して
いる技術だとノウハウ
最初
ウを活かしてやつてい
きましょうということ
になりました。そして
ドソ
リーノ
今年ロイヤルカスター
ドという品種を中心
て栽培してみると、けつ
とうと
こういいものが鈴なり
に出来たんです。高畑
ムセ
があ
くられました。ダニも出
てますが、とくに埃
品と
とい
なかつたし美味しい実
拶と返事は創業以来大

パナプラスの経営理
念は喜ばれる商品を作
ること。約30名の社員
にもその理念が浸透
て前向きにやつてくれ
ていると小竹社長はい
う。「パナプラスはチ
ームプレーでスピード
感をもつて仕事をして
います。チームパナプラ
スで働く7(セブ
ン)ルールというのを
作ってみんなで実践し

切にしていて厳しく指導しています。そのほか働きやすい環境作りのために社員とコミュニケーションをとるようになっています。私は野菜や苗を育ててお客様に喜んでもらうために就農したのですが、会社の規模が大きくなつて労務管理がメインの仕事になつていると感じがいまの悩みです。

会社経営について



愛情こめて作られた苗は全国のホームセンターに発送される



ブロックごとに様々な品種の苗を生産している

パナプラスは創業10周年を迎えた。「農業の大変さを知らずにこ

の世界に飛び込みましたが、なんとかここまでやってきました。会社でやることを一生懸命やります」と、次回の10年を目指して頑張っていきます。

私たちバナプラスは、農業を通して
笑顔集まる
幸せ拡がる
喜び溢れる
商品とサービスを創造します。

 Pena Plus⁺
www.penaplus.com

次の10年に向け前進

7月14日～16日 愛知県国際展示場

①ハウス栽培で安定生産・収量増加・省力化につながる提案が多数 ○高い採光性で収量増加に貢献するハウス、独自の細霧冷房による真夏の栽培を可能にしたハウスのほか、ハウス強靭化に関わる部材など各社特色のある展示を行う。さらに遮光・遮熱シートなどの暑さ対策資材、生分解性原料を使用したフィルムや培地など、環境に配慮した資材も多数展示される。

日本施設園芸協会主催の施設園芸・植物工場展2021（GPE C）がいよいよ7月14日から16日までの3日間、Aichi SKY Expo（愛知県国際展示場）において開催される。「未来につなげるN1 P-PON農業」をテーマに150の企業・団体が展出し、新製品や新技術を展示・発表する。題目化されると安心して来場できるよう新型コロナウィルス感染症対策を万全にして行われ、多くの参加を呼びかけている。入場するには事前登録が必要でGPECホームページ（www.gspec.jp）。

A black and white photograph showing the exterior of the National Center for the Performing Arts in Beijing. The building features a distinctive undulating facade with a grid of windows and a large, dark, angular section on the left side. In front of the building is a wide, multi-lane road with several cars and a small pedestrian area. The sky is overcast.

した環境制御装置を多数展示する。安定生産や収量増加、品質向上、省力化と多面的に導入効果があり、スマート農業の普及促進が課題とされる日本農業に欠かせない製品・技術が揃う。

○人手不足や高齢化、災害対策など、これからの中日本農業の課題解決の一助となる多種多様な展示を行う。重量物を安易に運べるリフターは生産現場のみならず流通現場でも省力化が期待できる。

昨今の異常気象や自然災害の増加に伴い、緊急時の電源確保などの課題とされる日本農業に欠かせない製品・技術が揃う。

○人工光型植物工場においては、藻の発生を抑える水耕栽培バネルや、各社独自の技術・アイデアを生かした栽培システムなどが展示される。また収量増加やランニングコスト削減に直結するLEDなど、生産に必要不可欠な資機材が揃う。

○コロナ禍で衛生面や安定生産に優れた植物工場があらためて注目を集めている。各社

中部国際空港セントレアに直結した愛知国際展示場

（新しい農業クラウドサービスの紹介）、トヨタネ（地元愛知から最先端技術を発信）、渡辺パイプ（クリアハウスシリーズの展示）、株誠和。（スマート農業関連商品・サニービス）、ダイキン工業株（栽培用ヒートポンプと予冷庫）、株ハイポネックスジャパン（BS資材、ネクスコートプロを紹介）、パナソニッククライティングデバイス株（UV-（ハウス内の無人防除除の提案）、有光工業株

から幅広い提案がされ、植物工場の普及促進と課題解決に貢献する。

③大学・研究機関が研究成果を発表

○大学・研究機関「

「」では環境制御、型植物工場で活用できる技術、SDGs社会の実現に向けた取り組みなどの研究成果が発表される。

&減農薬栽培を提案)
株サカタのタネ(サカタ
タの新しいタネやソリ
ーションを提案)